

北社協地域福祉活動計画等推進委員会
 副委員長 谷口 政隆 (中国学園大学大
 議会議長)

委員 高木 博通 (北区健康福祉
 課長)

平成23年3月1日～25年2月28日
 委員 竹腰 里子 (北区社会福祉協
 議会議長)

委員 永田 陽子 (育ち愛ほっと館
 専門相談員)

北社協地域福祉活動計画等推進委員会の活動報告

北区社会福祉協議会では、平成18
 年度より北社協地域福祉活動計画
 等推進委員会を設置し、社協が計画
 に基づき重点的に取り組む事業や目
 標の管理を行っています。

福祉のしごと総合フェア 開催
 平成23年9月7日(水)
 11:00~15:00
 場所：北とぴあ 13F飛鳥ホール

「福祉のしごと総合フェア」は、北区内の福祉施設・事業所
 が参加し開催する「就職相談・面接会」です。北区内の福祉施設・事業所等で働ける求人情報の紹介があります。福祉のしごと
 に関心のある方、求職中の方など、ぜひご来場ください。

福祉の資格に関する相談コーナーや、
 ハローワークの職員が対応する相談コー
 ナーもあります。

○総合相談コーナー
 ○面接ブース
 ○福祉資格相談コーナー

○福祉ショップ&カフェコーナー
 ○福祉のしごと紹介コーナー
 ○ハローワーク王子相談コーナー

過去の求人例
 介護職員、ホームヘルパー、ケアマネージャー、保育士、看護師、
 送迎ドライバー、調理員 ほか

主催：北区、社会福祉法人北区社会福祉協議会、社会福祉法人東京都福祉人材センター
 後援：ハローワーク王子

北区社会福祉協議会 総務係 ☎03-3906-2352



「おちやのご祭」は北区で福祉
 のまちづくりをするためのネットワ
 ークを広げよう！という目的で北区
 社協が提唱し、毎年6月に開催して
 いる「みんなで作ってみんなで楽し
 むお祭り」です。

**今年も大入り！
 おちやのご祭**

東日本大震災が発生した今年も、
 「ここををつなごう ひとりからみ
 んなへ」をテーマに東日本大震災チ
 ャリティイベントとして、開催しま
 した。被災地で活動するボランティア
 団体などのためのチャリティ募金
 も行われ、最終的には143,60
 2円を中央共同募金会へ寄付をする
 ことができました。

また、5階の北区社協ブースで
 も、チャリティイベントとして「10
 円ゲームコーナー」や「チャリ
 ティ駄菓子屋」を開催。売上金5
 5,557円を募金することができ
 ました。

当日、会場にお越しいただき、ご
 協力をいただきました皆様方に、心
 から感謝申し上げます。ありがとう
 ございました。

**災害支援活動職員
 派遣の報告**

派遣先：福島県いわき市災害救援ボ
 ランティアセンター (いわき市社会
 福祉協議会内)
 派遣期間：平成23年4月29日(金)

派遣先：福島県相馬市災害ボラン
 ティアセンター
 派遣期間：平成23年8月4日
 (木)～8月9日(火) 派遣職
 員：池田亜衣

①派遣先：福島県いわき市災害救援
 ボランティアセンター (いわき市
 社会福祉協議会内)
 派遣期間：平成23年4月29日
 (金)～5月7日(土) 派遣職
 員：小原宗一

②派遣先：宮城県石巻市 東北大こ
 ころのケアチーム
 派遣期間：平成23年5月15日
 (日)～5月19日(木) 派遣職
 員：菅野彩子

**災害支援活動に
 北社協から職員が
 派遣されています**

このたびの震災についての募金・ボランティア等の情報は、随時更
 新されています。北区社会福祉協議会のホームページにアップしてい
 ますので、ご覧ください。

北区社会福祉協議会ホームページ <http://www.kitashakyo.or.jp/>

5月7日(土) 派遣職員：小原
 宗一

福島県いわき市は、人口34万人と
 福島県内最大の人口規模の都市で
 す。面積は北区の約60倍の広さがあ
 り、今回の震災では南北50kmにわた
 る沿岸部に津波被害が集中し、死
 者・行方不明約350名、住家被害
 33,241棟(6月末現在)と甚
 大な被害を受けました。

北区社会福祉協議会では、現地の
 いわき市災害救援ボランティアセンタ
 ーの運営支援要員としてNPO法人日
 本ボランティアコーディネーター協会
 を通じて職員派遣を行いました。

津波により被災した市内沿岸部で
 は、道路などは片付けが進んでいるも
 のの、一本路地を入れば漂流物、ガレ
 キ、砂泥などが堆積し、行政や住民の
 力だけでは十分な撤去、片付けがす
 んでいない状況でした。関東地方から
 比較的近い位置にあるいわき市には、
 ゴールデンウィークを利用して連日数
 百人のボランティアが駆け付けてお
 り、ボランティアセンターでは地元
 の社会福祉協議会のスタッフに加えて、
 全国の社会福祉協議会からの派遣スタ
 ッフや地元の協力者など総勢70名規模
 の体制で県外等からのボランティアの
 対応を行い被災者の支援活動を行って
 いました。当会からの派遣職員はその
 中で、他県等から貸切りバスに乗って
 訪れるボランティア団体むけの活動の



粉じんの舞う中でのボランティア活動

事前調整や現場での活動サポートを行
 いました。ボランティアの参加者は初
 めて災害の活動に参加する方も多く、
 粉じんや臭いなどの厳しい環境での慣
 れない作業ではありましたが、被災前
 の美しい海岸・街並みを取り戻した
 いという地元の方たちの思いをうけ
 て、力をあわせて一生懸命活動をさ
 れていました。家の片付けをしてい
 た地元の男性の「ひとりで片付けを
 やっていると悲しくなっていて減入るけ
 ど、わざわざ東京から来てもらって
 若い人に手伝ってもらおうと元気がで
 る。」という言葉が印象的でした。
 ボランティアが手伝うということ
 は、単に作業を手伝うということにと
 どまらず、被災者の心に寄り添
 い、孤立感をやわらげることができ
 るのかと気付かされる場面でした。



津波で被害を受けた地域の様子(5月上旬)

紙面など記事に関する皆様のご意見・ご感想などございましたら、電話又はFAX・メールにてお聞かせください。☎03-3906-2352 FAX03-3905-4653 Eメール info@kitashakyo.or.jp